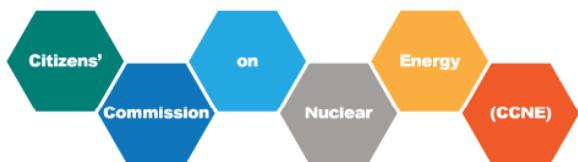


# 原発ゼロ社会への道

「無責任と不可視の構造」をこえて公正で開かれた社会へ

原子力市民委員会 著



原発事故とエネルギーを  
めぐる日本の状況

そして脱原発社会へのロードマップ  
市民がつくる脱原子力政策、シリーズの第3弾

★ 好評販売中 ★

電子書籍版：1,500円+税  
オンデマンド出版  
：1,800円+税

## 第4章 原発の安全確保に関わる技術と規制の課題

### 4.1 3.11 以降の原子力規制

#### 4.1.1 福島原発事故以降の原発稼働状況

#### 4.1.2 原子力規制委員会の発足と新規規制基準の制定

### 4.2 原子力技術の本質的な不確かさと規制の実態

#### 4.2.1 原発の安全確保の技術的な困難性

#### 4.2.2 原子力の安全に関わる事業者と規制当局の姿勢

### 4.3 原発安全性の技術的な争点と新規規制基準の欠陥

#### 4.3.1 自然災害対策（地震、津波、火山、風水害等）

#### 4.3.2 老朽化

#### 4.3.3 過酷事故（シビアアクシデント）対策

#### ■コラム⑰ 加圧水型（PWR）原発での最近の材料損傷事例

#### 4.3.4 水素爆発

#### 4.3.5 水蒸気爆発

#### ■コラム⑱ 高温ガス炉と小型モジュール炉（SMR）の幻想

#### 4.3.6 武力攻撃・破壊工作・航空機落下対策

### 4.4 原子力利用の可否を誰が決めるのか

#### 4.4.1 原子力防災の課題と対策の限界

#### ■コラム⑲ 防災計画で定められていた被ばく回避策は実行されなかった

#### 4.4.2 原発の運転あるいは事故責任についての司法判断

#### 4.4.3 自治体、首長、議会の果たすべき役割

#### 4.4.4 原子力の利用の可否を誰がどのように判断するのか

### 4.1.2.3 新規制基準適合性審査 (p.166～)

- ① **情報公開**：HPでの申請書、審査会合資料、審査会合の録画、議事録の公開は改善。「白抜き」「黒塗り」にされた不明箇所が多々ある。
- ② **クロスチェック解析**：福島原発事故以前に行われていたクロスチェック解析がまったくおこなわず、事業者の解析結果を丸呑みしている。
- ③ **パブリックコメント**：批判的な提出意見を採用して再審査した事例は皆無。
- ④ **「新規制基準の考え方」**(2016年6月)：原子力規制委員会が事業者を訴訟面で支援しているもの。規制機関としての中立性を保っていない。
- ⑤ **異議申立て**：設置変更許可と保安規定変更認可に対し市民らが行政不服審査法に基づく異議申立てをおこなってきたが、不誠実なプロセスで却下。
- ⑥ **新知見のバックフィット**：大山火山の噴火規模が想定の2倍以上だと認定したが、関西電力の高浜、大飯、美浜原発に施設の使用停止命令を出さず。

## 4.2.2 原子力の安全に関わる事業者と規制当局の姿勢 (p.169～)

### 4.2.2.1 原発事故裁判における電力会社・規制当局の無責任な主張

### 4.2.2.2 免震重要棟から耐震建屋への妥協

### 4.2.2.3 東京電力の度重なる不正発覚と原子力規制委員会の「適格性」評価

### 4.2.2.4 安全だと言わない・言えない新規制基準適合性審査

### 4.2.2.5 「ゼロリスク」批判：巧妙化する事業者・規制当局の責任逃れ